



# 公民館報 こもろ

No.911

令和8年1月号

発行 / 小諸市公民館  
編集 / 館報編集委員会

〒 384-0801 長野県小諸市甲 1275-2  
TEL 0267-23-8880 / FAX 0267-25-2224



芸能番組「笑点」の大喜利でおなじみ、落語家の三遊亭好楽さんの独演会を開催しました。

好楽さんの孫弟子にあたる三遊亭兼作さんの高座やマジシャンの瞳ナナさんによるステージを挟みながら、好楽さんに2席披露していただきました。開催日の「いい夫婦の日」にちなんで夫婦が登場する桂文枝さん直伝の「優しい言葉」という演目でも、会場が終始笑いに包まれていました。

## ◆内容

- p.21 新年のご挨拶 ほか  
p.22 「今支館・分館では」（八幡町分館／芝生田分館）  
p.23 「みんなの宝物」（真楽寺への道しるべ）  
p.24 「こんにちは」文化センターです！  
p.25 「ぼくとわたしの作品」（坂の上小学校）ほか  
「見た！聞いた！出前講座」（新町分館）



カラー版はこちら

新年おめでとうございます。皆様のお宅では、お正月をどのように迎えられるのでしょうか。

お正月が庶民の間に広まったのは戸時代中期と言われています。お正月は歳神様が村や里にやって来るのを、里人が迎えるという晴れの行事です。歳神様はその年の恵方からやって来ます（毎年方角が変わります）。そのため、かつては村や里の入り口には神様が来やすいように注連縄を巻いた「松飾り」をしつらえていました。歳神様は松や松の枝を依代としてやって来るので。

時代が下がるにしたがって、家々がそれぞれ「松飾り」をしつらえ、歳神様を迎えるようになりました。これが「門松」です。やはり依代としての松をあしらい、注連縄を巻きました。

歳神様を迎える方は、玄関に注連飾りを掲げ、お屠蘇で邪気を払い、お雑煮をいただいてお正月を祝います。

そして、15日の小正月に歳神様が帰つて行かれるまでが「正月」となります。

「正月」を調べてみるとすべてに理由があり、新たな発見でした。今年は多くのことに好奇心を持って実りの多い年としたいものです。

さながら各種イベントが開催されましたが、音楽会で『ゆうき』の歌に出会いました。この世に生をうけ、初めて世界と出会う子どもたち。見えるもの聞こえる音、味覚も触覚も全身で受け止め、体全部で気持ちを表現してくれる赤ちゃん時代からこの歌は始まります。曲名『ゆうき』のとおり、たくさん

の勇気を發揮して世界と向き合って成長してゆく姿が表現されています。それは、美しい歌声を響かせる子どもたちの今日までの歩みと重なり、私の心は打ち震えたのです。

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、公民館活動へのご協力誠にありがとうございました。

「音楽のまち・こもろ」を提唱して今年11年を迎えます。

10月11月は中学校文化祭、

小学校の音楽会、公民館まつりに小諸市民音楽祭、毎月の最終金曜日のミニコンサート、

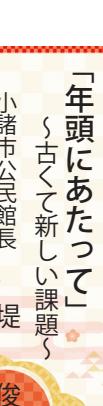
また作曲コンクール（ランプ

リ受賞曲は夕方5時の防災無線で流れます）と、芸術の秋



されました。音楽を通して様々

な出会いが私たちの心を豊か



「年頭にあたつて」  
～古くて新しい課題～

小諸市公民館長

堤俊

俊

音楽会で『ゆうき』の歌に

出会いました。この世に生を

うけ、初めて世界と出会う子

どもたち。見えるもの聞こえ

る音、味覚も触覚も全身で受

け止め、体全部で気持ちを表

現してくれる赤ちゃん時代か

らこの歌は始まります。曲名

『ゆうき』のとおり、たくさん

の勇気を發揮して世界と向き

合って成長してゆく姿が表現

されています。それは、美

しい歌声を響かせる子どもた

ちの今日までの歩みと重なり、

私の心は打ち震えたのです。

新しい年を迎えます。改め

て心を真っ新にして世界と出

会いたいものです。加えて『ゆ

うき』と一緒に生きることも

忘れない。

希望溢れる素敵な年となり

ますよう、公民館活動の一層

の充実を図ってまいります。

また、6月から9月にかけて

記録的な猛暑が続いたかと思

うと、今度は急激に寒くなり、

まさに異常気象、気候変動を実

感した年でした。今年こそは、

安心して過ごせる年になるよ

うに、と願うところです。

さて、公民館報こもろの縮刷

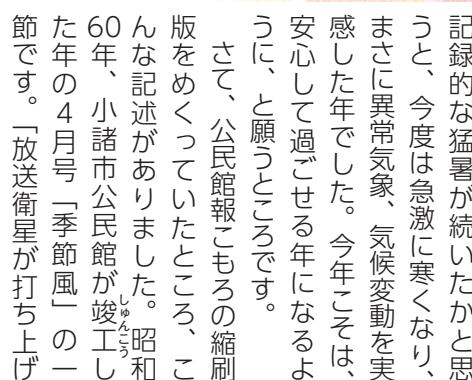
版をめくっていたところ、こ

んな記述がありました。昭和

60年、小諸市公民館が竣工し

た年の4月号「季節風」の一

節です。「放送衛星が打ち上げ



皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また旧年中は、公民館をはじめ文化センターの諸事業に対しご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。昨年は、物価高が一向に改善しないばかりか、米価が高騰しましたが、家計は大変厳しくなりました。また、6月から9月にかけて記録的な猛暑が続いたかと思ふと、今度は急激に寒くなり、まさに異常気象、気候変動を実感した年でした。今年こそは、安心して過ごせる年になるよう、と願うところです。

誰とも会わずに、瞬時にあらゆる情報が手に入る時代ですが、誰もが誘い合って、共通の事柄に触れられる、受け止め方が同じ人もそうでない人も、一緒に考えたり感じたりすることができます。そうした地域であります。本年も皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

られ情報化社会が進み、人ととのふれ合いが失われがちな折、社会教育の中での公民館活動の果たす役割は、ますます重要であると思つ。」

その時から40年を経て、情報化はますます加速し、おそらく当時は想像もできなかつた高度な情報化社会が到来しています。インターネットやA.I.（人工知能）が大きな影響力を持つ世の中になつてきました。新聞の朝刊記事に、A.I.を使っている人を対象にした調査の結果が、とりあげられています。それによると、対話型A.I.を『感情を共有できる相手』と答えた人の数は、親友や母とほぼ同水準だったとのことです。公民館建設当時から懸念されていた、人と人とのふれ合いが失われていくという危惧は、が失われていくといつ危惧は、

## 第61回児童生徒新年書初め展

市内に居住する児童生徒、市内の学校・書道塾へ通う児童生徒の新年への希望や決意を込めて書いた作品を展示します。

【開催日】令和8年1月30日(金)～2月1日(日)

【時間】9:00～17:00 (最終日は16:00まで)

【会場】乙女湖体育館（小諸市文化センター内）



問 児童生徒新年書初め展事務局（小諸市文化センター内）☎ 0267-23-8880

10月26日に八幡町分館でそば打ち体験が行なわれました。事前に区の皆さんに受講者を募り、27名が参加しました。私が取材を始めた時すでに45名の方がそばを打ち始めっていました。分館長に伺つたところ、「15～6年前から分館のイベントとして実施している」とのこと。どうりですでに手



「んば打ち」

八幡町分館

講師は吉澤泰二さんが務め、お子さん連れのお母さんも参加し、にぎやかにそば打ちが始まりました。ご家族で参加しているグループは、親子で和気あいあいとしており、一生懸命そばを打つていました。中には、手慣れた様子でそばを打つお子さんもあり、大変感心しました。

今  
支館・分館では

11月1日～2日にかけて、芝生田区公民館にて区民の文化祭が開催されました。



「文化祭」

編集委員 中山 正男

出来上がったそばは、パックに入れ各家庭に持ち帰って食べるそうです。コロナ禍以前はその場でゆでてみんなと一緒に味わったのですが、こんなところにもコロナの影響が出ていたんだと驚きました。大勢で食べる打ち立てのそばの味は格別で、親交も深める絶好の機会であると思われますが、残念です。いつかみんなと一緒にそばをする光景を想像しながら退館しました。

毎月1回実施している  
康達人「くらぶ」による作品や、  
生け花サークルの皆さんとの  
事な作品、区のお寺のイチヨウ  
の木と本堂を題材にした絵画  
色ごとに十数枚の版木を作成  
して刷られた版画、大きな甘  
イズで鮮明に印刷された写真  
等々が壁面に。また、会場中

文化祭は毎年11月の第1曜・日曜に開催されており、特に日曜日は芝生田区の区費納入日と重なっているため、納入を終えた大勢の区民が展示場に足を運んで鑑賞しています。作品は多種にわたり、それが時間が掛けて作成されていることがわかる作品ばかりで感心させられます。



今後も芝生田区文化祭が続  
きますように。

作品を展示していただいた  
皆さんだけでなく、会場を設  
営した区の役員の皆さんにも  
感謝したいと思います。

には丹精込めて育てられた盆栽の数々が飾られていました。会場の一角には、作品を鑑賞するだけでなく、家が離れていて普段は会えないような友人と、コーヒーやお茶を飲みながらゆっくりできるよう談話コーナーが設けてあり、ご高齢の方や子ども達が楽しそうに話をしていました。



# みんなの宝物

## 「真楽寺への道しるべ」

現存する真楽寺への道しるべ（道標）は、旧北国街道沿いに3つ、旧中山道塩名田宿に1つあります。真楽寺は、浅間山鎮火を祈願する役割を持つ寺（別当）でした。旅人のための道しるべが残っていることから、御利益を求めて諸国から講詣を組んで真楽寺へ参詣にくる人々がいたことが伺えます。

## 平原の真楽寺道標



荒堀の道標



## 荒堀の道標



三ツ谷の道標

注意はほほ渓間山方向の真  
樂寺参道へ向かつていて、途中  
の乗瀬には来た方向を逆に示  
す『北国街道への道しるべ』が  
あるのも興味深いです。

小諸市荒堀と御代田町三ツ  
谷の2カ所の道しるべに共通

平原の道しるべは、寺の墓地裏にあり（浅間山）別當真樂寺道（これより三拾丁）（真樂寺へ約3.3km）と書かれています。この道中（道幅狭く注意）は、ほぼ浅間山方向の真

現存する真楽寺への道しるべ（道標）は、旧北国街道沿いに3つ、旧中山道塩名田宿に1つあります。真楽寺は、浅間山鎮火を祈願する役割を持つ寺（別当）でした。旅人のための道しるべが残っていることから、御利益を求めて諸国から講詣を組んで真楽寺へ参詣にくる人々がいたことが伺えます。

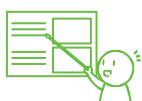
して書かれている文字が『出ぬけ』です（「出」はくずし字）。荒堀は「浅間山別當真樂寺へこれより一里拾丁追分宿へ出ぬけ半里近し」、三ツ谷は「浅間山別當真樂寺まで二十五丁大明神星ノ宮まで拾丁小諸へ出ぬけ」と書かれており、互に真樂寺を経由して追分宿と小諸宿へ抜け出る道であることを示しています。しかも北国街道（小諸）平原（追分）よりも半里（約2km）も近道だというのです。つい調べてみたくなり、真樂寺ルートと北国街道の旧道を歩くルートをインターネットで計測した

中山道塩名田宿の道するべ  
は、次の宿場の岩村田宿へ向  
かわずに千曲川沿いに耳取を  
通つて小諸宿へ行き、荒堀から  
八満を通つて真楽寺でお参り  
してから追分宿へ向かわせる  
ための道標でした。つまり真楽  
寺を目的地にした場合、この  
迂回路で少し楽に江戸へ向か  
えたわけです。旅人にとって  
なんともありがたい道しるべ、  
当時の苦勞が見えてきます。

ところ、2kmも差は出ませんでしたが、それでも真楽寺ルートの方が若干近い結果となりました。

郷土の歴史VI

## 出前講座

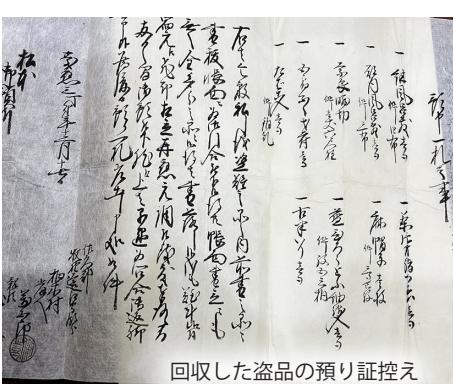


区歴史的遺産を守る会」の学習会として出前講座「江戸時代の盗難について」が開催されました。主に古文書調査室が所蔵する古文書から江戸時代の小諸や佐久地域における盗難の事例を、盗品の内容、被害者の苦しみ、犯人の行動、役人の動き、処罰について解説していただきました。



古文書から読み解かれる当時の社会の様子は、現代にも通じる多くの示唆を与えてくれました。

飛脚による情報伝達、「岡つ引き」の捜査能力の高さなど具体的な記録をみて、まるでサスペンスのように感じました。盜難被害届から当時の社会が見えてきます。盗品では特に衣類が多く、その価値の高さや大切さがうかがえます。金銭や衣類が主な盗品であること、犯人への厳しい処罰、身内にも連帶責任が及んでいたことが分かり、処罰の厳しさに驚きました。一般的の百姓に対しても盗賊に備える訓練を促すお触れには、地域全体の防犯意識の高さを感じました。



### 回収した盗品の預り証控え

# 「こんにちは」文化センターです！



入賞作品「ずぶぬれ 気持ちいい！水鉄砲合戦」

市川さんは、子ども講座の運営にご協力いただいている看護師の奥様に付き添つて3年。毎年、子どもたちの笑顔あふれる動きに幾度となくシャッターを切り、その中からハツラツとした子どもたちが水鉄砲合戦を楽しんでいる様子が伝わる1枚を厳選したそうです。

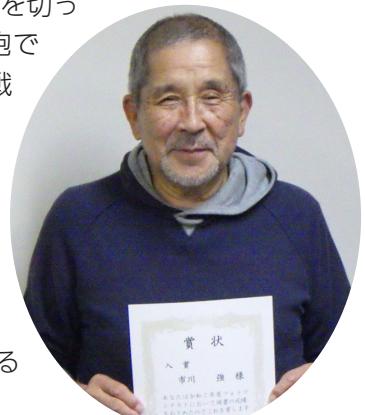
「子どもたちの楽しんでいる姿を見るのは楽しい。」と話す市川さんの人柄が伝わる作品でした。市川さん、受賞おめでとうございます！

長野県公民館運営協議会主催  
「第21回フォトコンテスト」入賞！

日頃の公民館活動を写真に収めた「第21回フォトコンテスト」（主催：長野県公民館運営協議会）が開催されました。

編集委員を務める市川強さんの作品「ずぶぬれ気持ちいい！水鉄砲合戦」が入賞しました。

受賞作品は、令和6年8月に小諸市公民館が開催した夏休みこども講座「ウォーターサバゲー」の一場面です。参加した子どもたちが自ら竹林の竹を切つて作った水鉄砲で楽しそうに対戦する様子をとらえています。



受賞した市川強さん

## 11/29(土) 小諸市文化会館自主事業 第38回小諸市民音楽祭

今年度は、毎年9月に開催していた小諸市民音楽祭を11月に開催しました。

小諸市公民館登録団体に認定されている音楽団体を中心に、日頃の練習成果を発表していただきました。内容は、管楽や弦楽、銭太鼓や合唱、ジャンルもクラシック音楽やゴスペル、童謡・唱歌、ポップスなど多種多彩な演奏でした。今回は、昨年放送されたNHK連続テレビ小説（通称、朝ドラ）「あんぱん」の影響もあり、故・やなせたかしさんが作詞した曲の合唱を披露する団体もいました。



前回に引き続き、嶋田多華子さん・田中美恵子さん・小池典子さんをスペシャルゲストとしてお招きました。皆さん色違いのお揃いの衣装でステージに登場。衣装にまつわるエピソードトークなどを交えつつ、島崎藤村の『若菜集』に収録された「潮音」やアンコールを含む計6曲を演奏していただきました。



スペシャルゲストの演奏の様子（左から田中さん、小池さん、嶋田さん）

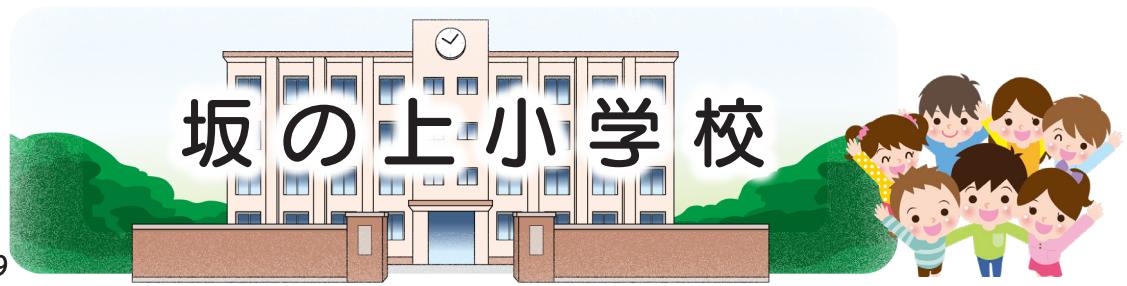
音楽祭は、スペシャルゲストと観客による唱歌「ふるさと」の大合唱で締めくくりとなりました。

### 【出演団体】（出演順）

小諸市消防団音楽隊／ゴスペルん♪こもろ／コール・フローラ小諸才能教育研究会小諸支部／小諸童謡唱歌をうたう会  
合唱団小諸ハーモニー／こもろ銭太鼓／小諸合唱団  
浅間山麓男声合唱団

### 【スペシャルゲスト】

嶋田多華子／田中美恵子／小池典子



「目標に向かって」

6年1組 やなぎさわ 柳澤 莉音



これは、版画の自画像です。最高学年になり、新しいめあてに向かってがんばろうと思ってまっすぐ前を向いているところです。この版画を彫刻刀で彫ったとき、光と影が表現できるように意識していくつか工夫をしました。

まず、服や顔には影があるので、影の部分は彫る線を細くして黒い色が出るようにしました。

鼻は、形が分かるように光が当たっているところをしっかり彫って、影との境目がはっきりするようにしました。髪の毛は光の反射で白く見える所があったので、光っているところを髪の毛の流れの通りに慎重に彫りました。

一番工夫したところは影との境目を細く彫ったところです。彫刻刀を入れる角度を変えると彫れる線の細さが変わります。影との境目をつける時は、刃先で少しだけ彫るように角度を浅くして細い線にしました。

彫り終わった後にインクをのせて紙に写す瞬間はとてもわくわくしました。がんばろうという気持ちが表せてよかったです。

小学校生活は残り少ないですが、めあてを達成するようにがんばります。



「真剣に取り組んでいるぼく」

6年2組 みやじま 宮島 芯

ぼくがこの作品をつくるときに工夫したところは、メガネの細部まで再現することと、かみの毛の立体感を出すことです。

そして、気をつけたところは、下絵の形がわかりやすくなるようにしたこと、彫るときに線の太さが同じくらいになるようにゆっくりていねいに彫ること、インクをつけて刷るとき、しっかりうつるように力をこめて紙にうつしたことです。

作品のタイトルは「真剣に取り組んでいるぼく」です。この作品では、いつもはふざけたりにぎやかにしているぼくが、時には真剣に取り組む姿を表現しました。ぼくは今地域のサッカークラブに入っています。最後の大会に向けて、毎日頑張って練習しています。きっとサッカーをしているときのぼくも、こんな表情をしているのではないかと思います。他にも、得意な教科の勉強や、副委員長をしている児童会活動にも、一生懸命取り組んでいきたいです。

ぼくは、もう少しで小学校を卒業して中学生になります。小学校での経験をもとに、中学校でも頑張りたいです。



1/6(火)施設予約開始

施設予約は、2月受付分から  
オンライン予約を開始予定です。

施設名	利用月	施設名	利用月
公民館	R 8/ 3	文化会館	R 9/ 1

